



第31号
(発行所)
真宗大谷派 松岡山 廣讚寺
中村区城屋敷町3-30
TEL (052) 411-5301
FAX (052) 411-5341

老境

中国の有名詩人が次のようにうたっている。

「人生根蒂無く 飄として陌上の塵の如し 分散して

風を随いて転ず 此れ已に常の身に非ず」と。

さらに同じ作家に

「魂氣散じて何くにか之く 枯形空木に寄す 嬌兒

父を索めて啼き 良友我を撫して哭く」

中国詩書をひもといていると、至るところに現実主義をみる。今を謳歌(おうか)し今を楽しむ。それで人生はよしとするものだといったところらしい。

そうした自分勝手の結論らしきものから善導大師の作

品をながめてみると、中国という国民の奥の深さをしみじみと感じる。そんなことを考えていたらふと聖人の人生を思いました。老境の思想の見本は聖人にみることが出来る希有(非常に珍しい)の人材だと思った。

『浄土和讃』 『高僧和讃』にはじまる『唯信抄文意』

『有念無念事』 『浄土文類聚鈔』 『尊号真像銘文』 『愚

禿鈔』 『一念多念文意』そして『正像末法和讃』に至る

八十(歳)代の若々しい作品が一体どうして生まれたのだろうか。

仏法の真実を語り現実世界に平和を求め一一の花の放つ三十六百の光明の世を貧しき老僧の老いのまなこにきらめいていた理想の姿の実現を、まず関東の弟子たちに託したのかもしれない。それは全世界人類へのメッセージである。

住職童話

午後四時です。パートを終えたお母さん方が自転車で園児を迎えにやってきました。いつもの五人組母さんはわが子をつれ小売店に入りました。そして、あの先生はいい先生だ、この先生はちよつとおかしいとか、いつもの話題でうつぶんをばらしております。



そこへ雲にのつたお釈迦様が現れました。『子供にとって一番大事な先生はお母さん先生ですよ』と。ソフトクリームをペロペロなめていたお母さん、缶ジュースをガバガバのんでいたお母さんは、それをそつとかくしましたが、もうお釈迦様はそこにはおられませんでした。

阿弥陀経にでてくる高弟子第三「摩訶迦葉」

伊藤和美

高弟子三番目は「摩訶迦葉」です。この人は王舎城の近くに住んでおられた。お釈迦様の弟子になってからは、マハーカッサバと呼ばれました。かねてから出家の志が強かったが、たった一人の男の子であり、両親は出家を許しません。自分も両親の嘆きを見るに忍びず、両親が亡くなり嘆く人もなく、妻と相談して出家された。夫婦そろつてお釈迦様のお弟子になった。

摩訶迦葉はお釈迦様より年上で、弟子の中で頭陀第一といわれた。頭陀とは最低の生活に満足し、粗末な衣を着て、粗末な食事をし粗末な家に住むことです。釈尊より三つの事、一、衣服を新調する。二、長者の家に招待される。三、老齢だから外に出るなの三カ条を守り通した。頭陀第一の摩訶迦葉は求道一筋でした。

摩訶迦葉の後日談を書くことを忘れてはいけない。釈尊がクシナガラで涅槃(ねはん)に入られ七日目に荼毘(だ

び)されることになる。遠い地で聞いた迦葉は、年のせいで早く歩くことができず、八日になった。一方茶毘のため薪まきに火がつかず、八日目に迦葉が来て火をつけたら燃え上がった。釈尊が迦葉を待ってみえたとき口ぐちに弟子たちは言った。

八月

恵女

八月は原爆忌・終戦記念日と日本の悲惨な過去を思い出させる月でもあります。中日春秋欄に広島原爆忌の句が目に留まりました…。

想ひ起すことが供養の原爆忌 石山佇牛

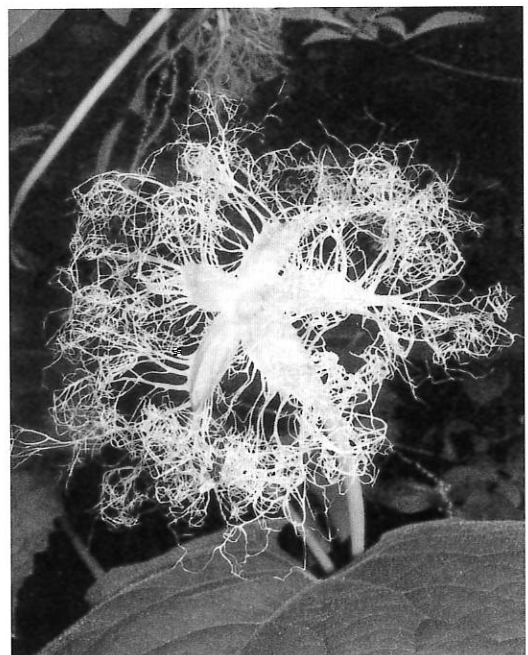
(私も平和を願う思いを…)

原爆忌平和の灯火ともしびとこしなへ 恵女

折鶴の天へ羽搏はばたけ原爆忌

玉音の乾坤一擲終戦日

なんの花



MM生

夜にだけしか咲かない花である。

妻に呼ばれてしぶしぶと玄関に出る。南天に巻きついて咲く一輪をみる。香りはジャスミンに近い。綿花のふわふわした花の中央にまた五弁の花をみる。カメラにおさめシャキッと一句。

白いはな花に花さくからすうり

辞書に次のようであった。同様の花にサボテン科の月下美人がある。

【20組行事案内】

「ご命日の集い」

・十月二十五日(月) 一時半～三時半

下中村町1の63 正賢寺

・十一月二十四日(水) 本山報恩講団体参拝

(日帰り)



行事予定

十月九日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時～二十八日講・女人講

十一月十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(金) 二時～四時 学習会

二十八日(日) 十時～二十八日講・女人講

